

ボーイズラブ (BL) という、男性同士の親密な関係や恋愛、性愛をテーマとした女性向けジャンルは、今やすっかり市民権を得て、それほど珍しがられるものではなくなったといえるでしょう。しかし、研究者という立場からは、このジャンルはほかにはない特徴を持っているように見えます。

その特徴とは、BL という「ジャンル」が学問の対象となっているという点です。BL ジャンル、あるいはBL 文化という場合、そこに含まれているのはBL 作品だけではありません。BL 作品を好む人々 (BL ジャンルを好む女性は「腐女子」と呼ばれています) についてや、熱心なファンのコミュニティや活動であるファンダム、攻・受のカップリングを妄想するBL 的なまざし、このジャンルの50年に及ぶ歴史、海外での受容のされ方についてなど、BL に関するあらゆる事象が研究対象となっています。BL 研究の特徴は、作品研究にとどまらず、「ジャンル」総体として注目され、BL そのものが1つの研究領域となっている点にあります。これは、他の領域と比較したとき、珍しいことだといえます。

では、なぜBL そのものが、ジャンルという形で関心を集めてきたのでしょうか。その問題を考える際に注目すべきことがあります。それは、このジャンルについての思索が始まった時点で立てられた、「なぜ、女性たちは、自分の性が登場しない男性同士の物語を描き、楽しむのか?」という疑問の存在です。最も早い時期にこの疑問に答えようとした論者として、自らも男性同士の性愛の関係に魅せられ、小説を書いた中島梓があげられます。中島は、自分の心情と向き合い、自己分析を通して、この問いに答えようとしてきました。そのとき用いられたのが、いわゆる「ジェンダー」の概念でした。社会のなかで女性が受けるさまざまな差別や生きづらさの問題、女性のセクシュアリティをクローズアップしたのです。

その後も、現代社会に生きる女性が経験する問題とBL には関係があると考えられ、論じられてきました。それだけでなく、男性同士の恋愛を描いていることからゲイ男性が受ける差別との関連や、性的表現が多用されることからポルノグラフィとしての問題も論じられてきました。また、こうした社会問題と

のつながり以外にも、BLがどのように生まれ広がっていったのか、マンガや小説としての特徴的な表現は何か、原作には描かれていない男性間の恋愛や人間関係を妄想する二次創作はいかにして作られるのか、BLファンはどのような人たちで、どのようなコミュニティを築いているのかなど、幅広く人文科学をまたぐ射程で研究が蓄積されてきました。

BLが「ジャンル」として研究されてきたのは、作品そのものの魅力のほかに、BLをとりまくさまざまな事象に関心が寄せられたためです。本書は、こうした多様な研究枠組みからのアプローチがBL研究の大切なポイントであると考え、これまでどのような視点から研究が行われてきたのかをまとめることを目的としています。メディア研究や社会学、マンガ研究、文学研究、ジェンダー研究、セクシュアリティ研究、ファン研究、カルチュラル・スタディーズといった、たくさんの研究枠組みを含んだ学問領域として、BLジャンルを見渡す入門書となることをめざしました。おもな読者として、BLをテーマとして卒業論文や修士論文を書こうと考えている大学生、大学院生を想定しています。指導教員にも役立つでしょう。また、BLファンの方にもぜひ、読んでいただきたいと思っています。BLとの出会い方は人によってそれぞれ違いますから、知らなかった歴史やサブジャンルの発見があるのではないのでしょうか。

☆

本書は、3つの部から成り立ちます。

第Ⅰ部では、BLというジャンルの成立と変化を概観します。BL作品だけでなく、BL研究にも歴史があり、たくさんの知見が重ねられてきました。先行研究を読むことは研究の第一歩です。しっかりと歴史を押さえ、どのようにしてBLが研究されてきたのかを学んでください。

第Ⅱ部では、BLジャンルの内容を具体的に検討し、それぞれの研究方法を紹介します。同人誌、短歌、ポルノ、ファンダム、アイドルへのまなざし、ゲームなど、多様なコンテンツと、それを分析するための理論（物語論、クィア理論、フェミニズム理論、コミュニティ論、メディア分析、情報論）が論じられます。

第Ⅲ部では、BLが社会のなかで衝突（コンフリクト）を起こす問題について取り上げます。BLは行儀のよい文化ではありませんし、悪ふざけも得意です。もともとは、知る人ぞ知るアンダーグラウンドな存在であったことも影響し、

社会で可視化されていくと同時に摩擦や批判も起こってきました。BLが持つ問題点を考えることも、研究には必要です。

このように、本書はBLを幅広い視座から捉えるものです。論文執筆や思考の広がりの手助けとなるよう、できるだけ先行研究の整理や、議論展開を示すように心がけました。また近年、海外でのBL研究が進んでいます。日本におけるこれまでのBL研究をまとめることで、海外研究との類似や相違を論じる際の手助けにもなると考えます。

☆

先に、BLは現代社会に生きる女性の経験と切り離せないと言った点について、もう少し踏み込んでおきたいと思います。

私たちの生きる社会は、女性に対する差別だけでなく、異性愛中心に設計されていることによる問題を抱えています。また、生まれたときに割り振られた性別をそのまま生きるシスジェンダー中心の社会です。男性同士の絆を基盤とするホモソーシャルな社会です。ジェンダー規範や、性的な事柄に関する評価基準が男女で異なる、つまり性のダブル・スタンダードが存在する社会です。BLは、このような社会のあり方に従順ではなく、「普通」「当たり前」とされていることを揺るがせる価値観を含んでいるといえるでしょう。BL作品がクィア*であるとは必ずしも言い切れないけれど、BLの存在自体がクィア的である、と言い換えてもいいかもしれません。BLは、それぐらい大きな視野から考えることができるものなのです。

「なぜ、BLというジャンルが成立し、こんなにもたくさんの人を魅了しているのか？」

その理由を社会のありようとともを考えるために、本書はよい手引きになると思います。

☆

最後に、本書で用いる用語について説明しておきます。

第1章で詳しく論じていますが、このジャンルを示す言葉は、時代、作品発

表媒体などによって、さまざまに移り変わってきました。たとえば、本書のタイトルに含まれるBLは、商業作品を指し示す時期もありましたが、今では、先述した男性同士の関係を描く二次創作や、マンガや小説以外も含むジャンルの総称として使われることが多くなっています。歴史を扱う本書において、その当時使われていた名称と、現在の名称が異なることや、同じ言葉であっても時期や用い手によって意味する内容が違うことは悩みの種となりました。

そこで本書では、BLを、ジャンル全体を示す総称として用いることとし、そのほかの名称は、いつの時代の作品を示しているかによって、少年愛、JUNE、耽美、やおい、BLなどを使い分けることとしました（引用の場合は、もとの文章のまま用いています）。そして、現在は「二次」や「同人」と呼ばれることが多い二次創作作品には、「やおい」を用いることとしました。昔風に感じられる呼称に戸惑う読者もおられるでしょう。しかし、「やおい」には自嘲的な意味合いや、性的表現が描かれていること、男性同士の性愛を妄想する行為といった意味などが込められてきました。そうした経緯を考え、本書では、多面的なイメージを内包する「やおい」という言葉をあえて使用することとしました。

本書が、広く深いBL研究の海を航海する一助となることを願っています。

堀 あきこ

* ここで用いているクィアとは、「特定の性のあり方のみを『ノーマル』とみなし、それ以外のあり方を『逸脱』と位置づけ、他者化する考え方を批判的に検討する視点」（菊池ほか2019:5）を指す。クィアについては、第7章も参照のこと。（菊池夏野・堀江有里・飯野由里子、2019、「クィア・スタディーズとは何か」菊池夏野・堀江有里・飯野由里子編著『クィア・スタディーズをひらく1 アイデンティティ、コミュニティ、スペース』晃洋書房。）

堀 あきこ (ほり あきこ) 編者 第4章(第2~3節), 第8章, 第12章

1968年生まれ。関西大学他非常勤講師, 関西大学人権問題研究室非常勤研究員。大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程修了, 修士(人間科学)。

専門分野: ジェンダー, セクシュアリティ, 視覚文化

主要著作: 『欲望のコード——マンガにみるセクシュアリティの男女差』臨川書店, 2009年; 「メディアの女性表現とネット炎上——討論の場としてのSNSに着目して」『ジェンダーと法』16, 2019年

藤本 由香里 (ふじもと ゆかり) 第1章

1959年生まれ。明治大学国際日本学部教授。東京大学教養学部教養学科卒業。

専門分野: 漫画文化論, ジェンダーと表象

主要著作: 『私の居場所はどこにあるの? ——少女マンガが映す心のかたち』学陽書房, 1998年; 『少女まんが魂——現在を映す少女まんがが完全ガイド&インタビュー集』白泉社, 2000年

石田 美紀 (いしだ みのり) 第2章

1972年生まれ。新潟大学経済科学部教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了, 博士(人間・環境学)。

専門分野: 視聴覚文化論

主要著作: 『密やかな教育——〈やおい・ボーイズラブ〉前史』洛北出版, 2008年; “Sounds and Sighs: ‘Voice Porn’ for Women.” Jaqueline Berndt, Kazumi Nagaike and Fusami Ogi eds., *Shōjo Across Media: Exploring “Girl” Practices in Contemporary Japan*, New York: Palgrave Macmillan, 2019

西原 麻里 (にしはら まり) 第3章, 第10章

1984年生まれ。愛知学泉大学家政学部講師。同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程退学, 博士(メディア学)。

専門分野: マンガ研究, メディア研究, 社会学

主要著作: 『マンガ文化55のキーワード』(共編著) ミネルヴァ書房, 2016年; 「マンガの／で, ジェンダーを考えること」小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』水声社, 2016年

守 如 子 (もり なおこ) 編者 第4章 (第1節), 第5章, Column⑥

1972年生まれ。関西大学社会学部教授。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了, 博士 (社会科学)。

専門分野: ジェンダーとセクシュアリティの社会学, メディア研究

主要著作: 『女はポルノを読む——女性の性欲とフェミニズム』青弓社, 2010年; 『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』(共著)法律文化社, 2018年

石 川 優 (いしかわ ゆう) 第6章

1982年生まれ。大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター特任助教。大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程修了, 博士 (文学)。

専門分野: 文学理論, ファン文化研究, マンガ研究

主要著作: 『『やおい』における物語の生成——物語世界と筋という視点から』『マンガ研究』23, 2017年; 『関係性のテキスト——『やおい』における生成の動態性』『表現文化』10, 2017年

岩川 ありさ (いわかわ ありさ) 第7章

1980年生まれ。法政大学国際文化学部准教授。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学, 修士 (学術)。

専門分野: 現代日本文学, クリア批評, ト라우マ研究

主要著作: 「名前の贈り物——『いとしの猫っ毛』シリーズをめぐる」『ユリイカ』50(16), 2018年; 「私は街を歩きたい——インベカヲリ★『理想の猫じゃない』論」『JunCture: 超域的日本文化研究』10, 2019年

東 園 子 (あずま そのこ) 第9章

1978年生まれ。京都産業大学現代社会学部准教授。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了, 博士 (人間科学)。

専門分野: 社会学 (文化社会学, ジェンダー論)

主要著作: 『宝塚・やおい, 愛の読み替え——女性とポピュラーカルチャーの社会学』新曜社, 2015年; 「2.5次元ファンの舞台の見方——宝塚ファンとの比較から」『美術手帖』2016年

木川田 朱美 (きかわだ あけみ) 第11章

1984年生まれ。京都精華大学共通教育機構特任講師。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得退学。

専門分野: 図書館情報学

主要著作: 「国立国会図書館におけるポルノグラフィの納本状況」(共著)『図書館界』61(4), 2009年

前川 直哉 (まえかわ なおや) 第13章

1977年生まれ。福島大学教育推進機構特任准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(人間・環境学)。

専門分野：ジェンダー・セクシュアリティの社会史

主要著作：『男の絆——明治の学生からボーイズ・ラブまで』筑摩書房、2011年；『〈男性同性愛者〉の社会史——アイデンティティの受容／クローゼットへの解放』作品社、2017年

金 孝 眞 (キム ヒョジン) 第14章

1974年生まれ。ソウル大学校日本研究所助教授。Ph.D. Department of Anthropology, Harvard University

専門分野：文化人類学・日本研究

主要著作：「同人誌文化のグローバリゼーションと韓国の女性同人——2000年代以降を中心に」大城房美編『女性マンガ研究——欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』青弓社、2015年；「フェミニズムの時代、BLの意味を問い直す——2010年代韓国のインターネットにおける脱BL言説をめぐって」ジェームズ・ウエルカー編『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社、2019年

Column

- ① 倉持佳代子 (くらもち かよこ) 京都国際マンガミュージアム研究員
- ② 田原 康夫 (たはら やすお) 学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程
- ③ ジェームズ・ウエルカー (James Welker) 神奈川大学国際日本学部教授
- ④ 田亀源五郎 (たがめ げんごろう) マンガ家、ゲイ・エロティック・アーティスト
- ⑤ 須川亜紀子 (すがわ あきこ) 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授

目次

はじめに——なぜ、BLは重要な研究対象となっているのか	i
執筆者紹介	v
本書の使い方	viii

第I部 BLの歴史と概論

第1章 少年愛・JUNE／やおい・BL	2	● 藤本由香里
——それぞれの呼称の成立と展開		
1 「少年愛」の登場	3	
■ 「少年愛」誕生の経緯	3	
■ 「男同士」モチーフのバリエーション	5	
2 専門誌『JUNE』の創刊	7	
■ 『JUNE』の創刊	7	
■ 『JUNE』と初期の角川ルビー文庫	8	
3 「やおい」の誕生——「男同士の愛」の展開	9	
■ 『らっぼり やおい特集号』	9	
■ 「攻・愛」ルールの確立	10	
4 「BL：ボーイズラブ」というジャンルの確立	12	
■ 1990年代——専門誌が次々創刊	12	
■ 用語の使い分けと言説の混乱をめぐって	14	
第2章 少年愛と耽美の誕生	18	● 石田美紀
——1970年代の雑誌メディア		
1 「少年愛」作品と少女マンガ革命	18	
■ 1970年代におけるやおい・BLの萌芽	18	
■ 作者とプロデューサー	19	
■ 遅れてきた少女マンガ誌	20	
■ 作者と編集者の闘争	21	
■ 読者の支持	21	

■ より多くの読者を味方につけるために	23
2 「耽美」の形成	24
■ 『JUNE』創刊 (1978年)	24
■ 編集者と作者	25
■ 少年愛から耽美へ	26
3 若者サブカルチャーと雑誌創刊	27
■ 意見表明の場としての雑誌	27
■ マンガ同人誌との人材の共有	28
■ 真面目さと遊びの共存	28
4 竹宮恵子・中島梓による読者への教育	30
■ 竹宮恵子によるマンガ指導——「ケーコタンのお絵描き教室」	30
■ 中島梓による小説指導——「小説道場」	30
5 「耽美」の広がり——『ALLAN』(1980~84年)	31

第3章 同人誌と雑誌創刊ブーム、 そして「ボーイズラブ」ジャンルへ

● 西原麻里 40

——1980年代~90年代

1 1980年代——商業誌での「少年愛」の変化と 同人誌の「やおい」「アニパロ」	40
■ 1970年代末から80年代へ——商業誌と『JUNE』『ALLAN』	40
■ コミックマーケットと「やおい」「アニパロ」	41
■ 新しい作家の登場	42
2 1980年代末から90年代前半——専門誌の登場	45
■ 専門誌の登場——プレ・ボーイズラブ	45
■ キャラクター表現の「お約束」	46
■ 「ふつつ」の男性の恋愛物語	47
3 1990年代半ばから90年代末にかけて	48
——「ボーイズラブ」の形成	
■ 「ボーイズラブ」という型の形成	48
■ 過去との差別化としての「ボーイズラブ」	50
■ ボーイズラブ文化のサブジャンル——シヨタ (シヨタコン)	53

第4章 BLの浸透と深化、拡大と多様化 ————— ● 堀あきこ・守如子 57
—2000年代～10年代

- 1 ネットの時代…………… 57
 - 紙媒体からインターネットへ 58
 - 腐女子という言葉の成立と浸透 59
 - ファン・コミュニケーションの変化 60
- 2 BL作品のタイトル数の増加と多様化…………… 61
 - BLガイドの出現とBLを整理する試み 61
 - サブジャンルから見るBLの多様性 63
- 3 クロスオーバーするBL…………… 70
 - 雑誌ジャンルの越境 70
 - メディアの越境とBL的作品の増加 71
 - BLがスティグマでなくなるとき 72

第5章 BLはどのように議論されてきたのか ————— ● 守如子 77
—「BL論」学説史総論

- 1 批評の時代—「少年愛」作品の出現から1990年代まで…………… 78
 - 始まりはマンガ評論 78
 - 『JUNE』からの視点 79
 - 女性学からの視点 81
 - 発展するジェンダー研究 83
- 2 学問の時代—2000年以降…………… 84
 - 作品内容の具体的な分析へ 85
 - 広がるBL研究 87
- 3 「BL論」の変化をどう読み解くか…………… 88
 - 金田淳子の「やおい論の変化」再考 88
 - 少年愛と女性嫌悪 89
 - 「BL論」の変化の背景 90
- 4 多様なBLの楽しみ…………… 91

付論 BL小説ブックガイド ————— ● 『BLの教科書』編 97

第II部 さまざまなBLと研究方法

第6章 やおい同人誌を研究する 106

● 石川優

—物語とキャラクターの分析

- 1 理論と対象 106
 - 文学理論とその応用 106
 - やおいは「取扱注意」? 107
- 2 分析視点と資料調査の方法 108
 - 数量分析とパラテキスト分析 108
 - 資料の収集・調査 109
- 3 やおいの事例研究 110
 - 事 例 110
 - キャラクターと物語 111
- 4 やおいのキャラクター分析 112
 - キャラクターの「名前」の保持 112
 - キャラクターの「見た目」の保持 112
 - カップリングというコード 113
 - カップリングの形成史 114
- 5 やおいの物語分析 115
 - 二者関係をめぐる物語 115
 - 物語の舞台 116
 - キャラクターから生まれる新しい物語 117
- 6 やおいという「文化」..... 118
 - 誰もが「創作」できる世界 118
 - やおいの現在と未来 119

第7章 「BL読み」という方法 123

● 岩川ありさ

—BL短歌、クィア・リーディング、 二次創作短歌

- 1 BL短歌の登場—「五七五七七に萌えをぶっこむこと！」 124
 - 「#BL短歌」とBL短歌合同誌『共有結晶』の誕生 124
 - やおいとBL短歌のつながり 125
- 2 「BL読み」とクィア批評、クィア・リーディング 126
 - 「BL読みできる短歌」という発見 126

■ 「クィア」とは何か	128
■ クィア批評, クィア・リーディング	129
3 オルタナティヴな読みの方へ	130
4 二次創作短歌とアダプテーション	132
■ 二次創作短歌の展開	132
■ クィアな読みとアダプテーション	133
■ BL 短歌という新しい文化形態	134

第8章 ポルノとBL ● 堀あきこ 138

— フェミニズムによるポルノ批判から

1 フェミニズムとポルノ批判	138
■ 「家長长制」と公私の二分	138
■ 「正しいセクシュアリティ」とジェンダー規範	139
■ フェミニズムのポルノ批判とエロチカ	140
2 女性が楽しむ性的表現としてのBL	141
■ BLの表現—権力関係	141
■ BLの表現—モノ化① カバーから	142
■ BLの表現—モノ化② 関係性の記号化から	144
3 BLの性暴力	145
■ BLとフェミニズムの遠近	145
■ ファンタジー, レトリックとしての性暴力	146
■ 安全な性暴力と「痛い系」	147
4 自分とは異なる性について想像すること	148

第9章 やおいコミュニティにおける実践 ● 東園子 156

1 ファン・コミュニティとしてのやおいコミュニティ	156
2 コミュニティ形成を促すやおい	157
■ ファンによる生産	157
■ 解釈の交換	158
■ 愛のコードを用いる理由	160
3 趣味縁としてのやおいコミュニティ	161
■ やおいコミュニティの特徴と意義	161
■ 趣味縁としてのやおいコミュニティ	162
■ 近代化と趣味縁	163

- 4 現在のやおいコミュニティを考えるために …………… 164
 — データベース消費の広まり？
- 男同士の絆の描写が希薄な原作 164
 - 自由にカップリングしやすい原作 165
 - 男性向け作品を女性向けにアレンジした原作 166
 - データベース消費とやおいコミュニティ 167

第10章 男性アイドルとBL ● 西原麻里 170

—BLのまなざしで男性集団の〈絆〉の描かれ方を読み解く

- 1 男性アイドル文化とBLの近接性 …………… 170
- BLとして見る男性アイドル文化 170
 - ジャニーズとK-POPアイドル 171
 - 2人1組の戦略—「シンメ」と「公式カップル」 173
- 2 ジャニーズとK-POPのメディア戦略 …………… 174
- ジャニーズのメディア戦略—他者が作る“素” 174
 - K-POPのメディア戦略—自分たちで作る“素” 175
- 3 男性集団の絆の表現 …………… 176
- BLにしないジャニーズ／BLに見せるK-POP
- 「わちゃわちゃ」—アイドルたちだけの親密な空間 176
 - 「ニアBL」—恋愛のタームを用いた演出 177
 - BLにしないジャニーズ 178
 - BLを装う（擬態する）K-POP 179
- 4 男性アイドル文化の〈絆〉に萌えること …………… 181
- ファンによる「やおい」／ファンフィクション 181
 - 異性愛規範／ジェンダー規範のほころびを見つける 182

第11章 BLゲームとアーカイブ ● 木川田朱美 188

- 1 アーカイブ困難なBL作品—ゲームをおもな対象として …………… 188
- BLゲームとは何か 189
 - マルチシナリオ・マルチエンディング 190
 - BLゲームとレーティング 191
 - BLゲームのボイス 192
 - オンラインで配信されるBLゲーム 193

2	BL ゲームとアーカイブ	195
	■ BL ゲームのモノとしての特質と研究の困難さ	195
	■ ゲーム保存とメタデータ整備の動き	196
	■ オンラインゲーム・アーカイブの困難	196
	■ それでも、BL ゲームを研究する	197
3	図書・雑誌、同人誌、音声とアーカイブ	198
	■ BL 雑誌・マンガ・小説	198
	■ BL 同人誌・同人 BL ゲーム	199
	■ BLCD・BL カセット	199
	■ ウェブサイト・SNS に掲載されるやおい・BL 作品	200
4	保存が困難な BL 作品を研究するために	201

第III部 BL とコンフリクト

第12章 社会問題化するBL ● 堀あきこ 206

—性表現と性の二重基準

1	BL 図書排除事件と2つの性差別	206
	■ BL 図書排除事件	206
	■ 何が問題とされたのか①——ジェンダー規範	207
	■ 何が問題とされたのか②——ホモフォビア	208
2	性表現と性の二重基準	209
	■ 性表現を多用するBL	210
	■ 1970年代の性表現	210
	■ 同人誌からBLへ	212
	■ 性の二重基準	212
3	性表現と非対称性	213
	■ BL 有害図書指定	213
	■ 規制の男女平等	214
	■ 擁護と看過	215
	■ 腐女子と「自重」	218

第13章 ゲイ男性はBLをどう読んできたか ● 前川直哉 221

1	「BLはゲイ差別」という批判と、女性側の応答	221
---	------------------------	-----

■ 「やおい論争」	221
■ ホモフォビアの再生産	222
■ 「表象の横奪」	224
■ 批判への真摯な応答	225
■ 真摯な応答から何を学ぶべきか	226
2 BL を愛読するゲイ男性たち	227
■ 別冊宝島『ゲイの贈り物』	227
■ ゲイ男性にとっての肯定的側面	228
■ ゲイ雑誌『Badi』のBL特集	229
3 ゲイ男性とBLのこれから	231

第14章 BLとナショナリズム ● 金孝眞 238

1 近代におけるナショナリズムの成立とジェンダー	239
■ ナショナリズムとヘテロセクシズム	239
■ ナショナリズムと男性性の問題	240
■ ナショナリズムに基づいたホモフォビアとやおい	241
2 男性向けオタク系コンテンツのナショナリズムと BLのレイシズムの比較	243
■ 男性向けオタク系コンテンツにおけるナショナリズム	243
■ BLのレイシズムと他者の問題	243
3 国家擬人化マンガ「Axis Power ヘタリア」をめぐる論争	245
■ 「Axis Power ヘタリア」はなぜ国家間の問題になったか	245
■ 韓国における「ヘタリア」論争の経緯	245
■ 「ヘタリア」におけるオクシデンタリズムとナショナリズム	247
■ 国家擬人化やおいに見る女性たちのナショナリズム	249
■ BLが示すナショナリズムと男性性の問題	250
4 新しい挑戦としてのナショナリズムとBLの可能性	251

おわりに——なぜ、「BLの教科書」なのか 255

引用・参考作品リスト——マンガ編 261

引用・参考作品リスト——小説編 269

索引 277

Column

- ① 竹宮恵子×西炯子——『JUNE』「お絵描き教室」が果たした役割
(倉持佳代子) 35
 - ② BL と百合, 近くて遠い 2 つの世界 (田原康夫) 75
 - ③ 海外における BL 文化の広がり と 海外の研究 (ジェームズ・ウェルカー)
94
 - ④ BL マンガとゲイコミック (田亀源五郎 聞き手: 藤本由香里) 152
 - ⑤ 2.5 次元舞台における BL 的实践 (須川亜紀子) 186
 - ⑥ 生身の人間にファンタジーを押しつけないために (守如子) 236
-

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

本書の制作過程で、「BLの教科書って、どういうことですか?」という質問を受けることがしばしばあった。教科書という言葉に、「BLとはこういうものと決めつける本なのではないか」とイメージした人もあったようだが、もちろんこの本はそのようなものではない。本書は、BLについての分析や研究が、今ここまで進んでいるということを示すために編集された。その必要があるほど、BL文化は広く深く発展しているし、BL研究もどこから手を付ければよいか悩むほど多様に展開されている。

本書を企画するに至った背景の1つに、多様な分野でBL研究が盛んに行われる一方で、それらの研究を概観し、方法論や学問領域(ディシプリン)を整理する作業が十分に行われてこなかったことがある。同様の問題意識から、2012年には大阪腐女子研究会によって、「やおい/BLに対してどのような研究アプローチが可能であり、それがどのようなディシプリンに位置づけられるのかを解きほぐし、やおい/BLを研究していくための道筋を示すことを目的」とする(石川ほか 2014: 116)、BL研究をめぐるシンポジウムも開催されている。また、このシンポジウムの報告書では、「どのような方法論とディシプリンから研究するのか」という問いは、BL研究にとどまらず、他のポピュラー文化研究に敷衍可能な、重要な論点であると述べられている(: 117)。この指摘は、本書にも当てはまるものである。以下では、本書のそれぞれの章について、「方法論とディシプリン」や、他のポピュラー文化研究にとっての意義にも触れながら、簡単に振り返ってみたい。

第I部はBLジャンルの歴史を扱っている。第1章「少年愛・JUNE/やおい・BL——それぞれの呼称の成立と展開」(藤本由香里)は、「男同士の恋愛をテーマにした女性向けのマンガや小説(=BL)」を指す主要な言葉を歴史的に区分しながら見ていくことによって、このジャンルの歴史全体を概観している。あるジャンルを研究しようと思うとき、ジャンルで使われる用語も、そのジャンルに含まれるコンテンツの内容も歴史的に変化していることは少なくない。藤本が指摘するように、そのような変化に敏感であることはポピュラー文化研究にとって必須のことといえるだろう。

第2章「少年愛と耽美の誕生——1970年代の雑誌メディア」(石田美紀)は、やおい・BL前史にあたる1970年代の雑誌メディアに注目することで、「女性向けの男性同士の性愛物語」という主題がどのように広がっていったのかを分析している。この時代に大きな影響力を持った「雑誌」というメディアに注目することによって、作者と読者、そして編集者の協働が軸となり男性同士の性愛物語をジャンルとして培っていったさまが描かれる。

第3章「同人誌と雑誌創刊ブーム、そして『ボーイズラブ』ジャンルへ——1980年代～90年代」(西原麻里)は、メディア史と表現の変遷から、「ボーイズラブ」というジャンルがあるパターンを持つものとして成立していく過程を描き出している。1980年代の商業誌・同人誌の変化や、90年代のBL専門誌の登場などを踏まえて、作品内容が悲劇的なものから「明るくハッピーエンド」へと変化していった状況が明らかにされる。

第4章「BLの浸透と深化、拡大と多様化——2000年代～10年代」(堀あきこ・守如子)は、2000年以降の変化をおもに2つの視点から論じている。第1に、インターネットの普及である。紙媒体からインターネットへとメディアの中心が移行するなかで、ファン・コミュニケーションのあり方も変容しつつある。第2に、作品タイトル数が増加するBL作品のサブジャンルに注目することで、多様化という特徴を描き出している。

第5章「BLはどのように議論されてきたのか——『BL論』学説史総論」(守如子)は、ジャンル成立以降、このジャンルがどのように論じられてきたのか、それぞれの論者の学問的なバックグラウンドを確認しながら、その大きな流れを描き出そうとするものである。

第Ⅱ部は、さまざまなBLとさまざまな研究方法を取り上げた。まず、第6章「やおい同人誌を研究する——物語とキャラクターの分析」(石川優)は、文学理論を踏まえながら、やおい同人誌が原作をどのように紡ぎ直し、どのような物語を描いているのかを分析している。同人誌研究に興味がある人はもちろん、文学理論でポピュラー文化のコンテンツを読み解く際の参考にもなるだろう。

第7章「『BL読み』という方法——BL短歌、クィア・リーディング、二次創作短歌」(岩川ありさ)は、オリジナルのBL短歌と、既存の短歌を「BL読み」する二次創作短歌を扱う章である。この章ではBL短歌という表現形態と

文学・文化研究のクィア・リーディングとの関連が述べられているが、クィア・リーディングやクィア・スタディーズは、BL文化全体を考えるうえで重要な視点である。

第8章「ポルノとBL——フェミニズムによるポルノ批判から」(堀あきこ)は、BL作品のなかに含まれる性表現に着目し、フェミニズムの視点から検討している。フェミニズムは、ポルノグラフィが男女の権力関係を描いていること、女性の身体をモノ化していること、女性への暴力を肯定的に描いていることを批判してきたが、BLの性表現はこれらをどのように表現しているのか。この章では、フェミニズムについても知ることができる。

第9章「やおいコミュニティにおける実践」(東園子)は、BL愛好者とファン・コミュニティの実践に着目している。このような研究は、カルチュラル・スタディーズやメディア研究、社会学や文化人類学などの領域で盛んになっている。本章では、なぜファン・コミュニティに注目が集まっているのかと、ファンの新しい動向についても述べられている。

第10章「男性アイドルとBL——BLのまなざしで男性集団の〈絆〉の描かれ方を読み解く」(西原麻里)は、BL論の視点から日本(ジャニーズ)と韓国(K-POP)の男性アイドル文化の特徴を、メディア戦略の違いを踏まえながら読み解くものである。男性アイドル研究を志す人にも一読を薦めたい。

第11章「BLゲームとアーカイブ」(木川田朱美)は、図書館情報学の視点から、BL作品のアーカイブの現状について紹介し、入手が困難なことも多いなかでどのように研究していくことができるのかについて考察している。この章ではおもにBLゲームが取り上げられているが、他のメディアのBL研究を志す人も多くのヒントが得られることだろう。

そして、第Ⅲ部は、BLが社会との間で起こすコンフリクト(衝突)を取り上げている。第12章「社会問題化するBL——性表現と性の二重基準」(堀あきこ)は、BL図書排除事件やBLの有害図書指定という、とくに性表現を含んだBLが社会問題となった2つの出来事を取り上げ、ジェンダーの視点とホモフォビア(同性愛嫌悪)に着目し、読み解いている。

第13章「ゲイ男性はBLをどう読んできたか」(前川直哉)は、ゲイ男性の立場からBLがゲイ差別ではないかという問題提起がされた「やおい論争」などを取り上げ、整理を行っている。そのうえで、これまであまり取り上げられ

てこなかった「BLはゲイの味方」という言説も取り上げ、その背景を探っている。

第14章「BLとナショナリズム」(金孝眞)は、BLがグローバル化するなかで、BLはナショナリズムの問題とどのような関わりを持ってきたのかについて考察している。日本で生まれ楽しまれている文化が、インターネットによって世界中に拡散されたとき、どのような問題を生み出すのか、そうした状況をどのように考えるのかについて、重要な論点を提示している。

以上のように、本書は、多様な学問領域に目配りしつつ、BLの多様性にも対応できる内容作りをめざしてきた。本書はさまざまな読み方が可能な本であるが、とりわけBL研究をこれから大学院で志そうとする人には、自身の学問領域の選択の参考にもなるのではないか。

本書を企画するに至ったもう1つの背景に、海外でBL研究が進むなかで、日本のBL研究が(英語で発表されているいくつかのもの以外)ほとんど知られていないということがあった。2017年には、ジェームズ・ウェルカー氏によって「クィアな変容・変貌・変化——アジアにおけるボーイズラブ(BL)メディアに関する国際シンポジウム」(神奈川大学)が開催された(シンポジウムの詳細は、ウェルカー編〔2019〕を参照)。アジア各国からBL研究者が集ったこのシンポジウムは非常に刺激的なものであったが、日本のBL研究がほとんど踏まえられていないことを実感させられもした。このシンポジウムがきっかけで、本書の編者の1人である堀あきこがBL研究の“教科書”を発案し、筆者もともに検討を行ってきた。堀の企画は、まずは日本のBL研究を概観できるものを作ることで、そしてそれを英訳するというものであった。かくいう筆者自身も、日本のBL研究に興味があるものの日本語がわからない各国の若者と接するなかで、英語での発信が急務であると感じていたところであった。本書刊行のあと、英訳版も出版予定である。

日本発で、現在はグローバルな文化になっているBL。BLの源流である「少年愛」作品が登場した1970年から今年はずっと50年の年にあたる。BLの発展を追うように、このジャンルの研究も蓄積されてきた。この年に、これまでのBL研究の蓄積を概観できる『BLの教科書』を完成できたことを、執筆者一同、感慨深く思っている。

本書を作成するにあたり、原稿にコメントをいただいた山本文子さん、BL作品リスト作成にお力添えいただいた豊永由起子さん、装丁の宮越里子さん、装丁イラストの魚座さんをはじめ、たくさんの方々にご協力をいただいた。また、残念ながら諸般の事情で最終的な執筆メンバーには加わっていただけなかったが、準備段階では複数のBL研究者の方々にさまざまな方面からご助力いただいた。この場を借りてみなさまに感謝申し上げたい。最後に、私たち2人にとってこれが初めての「编者」経験であったということもあり、さまざまな不手際があったことと思う。丁寧に伴走してくださった、有斐閣書籍編集第2部の長谷川絵里さん、四竈佑介さんに心から感謝したい。

2020年6月

守 如子

〈引用・参考文献〉

- 石川優，東園子，西原麻里，杉本＝パウエンス・ジェシカ，木下衆，2014，「やおい/BLを研究する——方法論とディシプリン」『都市文化研究』16: 116-25。
- ウェルカー，ジェームズ編著，2019，『BLが開く扉——変容するアジアのセクシュアリティとジェンダー』青土社。

事項

●数字・アルファベット

18禁 120, 214
 2ちゃんねる 245, 248
 24年組(花の24年組) 4, 5, 15, 16, 20, 25-
 28, 43, 78, 81, 83, 89, 98, 223
 2.5次元舞台 71, 186
 BLCD 189, 192, 199, 200
 BLCDWiki 200
 BLカセット 99, 198, 199
 BLゲーム 71, 188
 商業—— 189, 202
 同人—— 189, 195, 199, 202
 二次創作—— 189
 BL短歌 123
 BL的な想像(力) 159, 186, 238, 251
 BL図書排除事件 87, 206, 213
 BL文化 i, 94, 238
 BL有害図書指定 206, 213
 BL読み 123
 ——できる短歌 126
 BL論 77, 166, 168, 170
 fan art 157
 fan fiction 157, 181
 fan-scholar 120
 HIV/AIDSの大流行(エイズ危機) 128
 Instagram 172, 176
 Internet Archive 197, 200
 JUNE(ジャンル) iii, 2, 7, 8, 13-15, 51, 79,
 80, 84, 90
 JUNE小説(耽美小説) 8, 31, 80, 81, 97, 99,
 101, 125, 153
 J禁 181
 K-POP 94, 170
 LGBTQ 92, 94, 103, 236, 240
 ——コミュニティ 92
 N禁 181
 pixiv 58, 59, 61, 120, 126, 132, 158, 200
 P禁 181
 Real Person Slash 181, 182

Shounen-ai 15, 95
 SNS 57, 58, 72, 126, 158, 162, 172, 180, 184,
 187, 193, 197, 200, 202
 Twitter 57-59, 124, 126, 159, 172, 180
 Yaoi 15, 95
 YaoiCon 95
 YouTube 174, 175, 184, 241

●あ行

愛される日本 248, 249
 アイデンティティ・ポリティクス 91
 アイドル 78, 94, 166, 170-185
 男性——文化 170, 171, 181-183
 愛のコード 159, 160
 アーカイブ 110, 188
 悪書追放運動 211
 アダプテーション 133, 134
 アニパロ 42, 45, 46, 50, 53, 132
 アニメイトオンラインショップ 200
 アプリゲーム 193
 アラブなもの 244
 アンソロジ 53, 152, 155, 199
 ——同人誌 162
 アンチ・ホモフォビア(反同性愛嫌悪) 92,
 129
 家制度 139
 異性愛
 ——の制度 127
 制度としての—— 240
 強制的な——社会 129
 異性愛規範(ヘテロノーマティヴィティ)
 53, 75, 86, 87, 136, 145, 148, 182, 183, 225,
 242, 249
 異性愛中心主義(ヘテロセクシズム) 123,
 127, 238, 239
 痛い系 147
 一次資料 188
 インターネット 57-61, 92, 94, 119, 157, 159,
 181, 207, 228
 インタビュー調査 58, 157, 229, 232

ウェブトゥーン 94
ウーマン・リブ運動 138
エイズ・アクティヴィズム 128
エスニック・クレンジング (民族浄化) 240
エスニック・マイノリティ 240
エモい 123
エロチカ 141, 148
大泉サロン 3, 5, 20
オクシデンタリズム 247-249, 253
オタク 222
—系コンテンツ 238, 243
—系のゲイ 155
女性— 160
女性向け—系コンテンツ 243
男性— (文化) 87, 165
男性向け—系コンテンツ 243, 249
男同士の絆 4, 5, 129, 158-160, 164, 167 →
男性同士の (強い) 絆も参照
オメガバース 66, 68, 94, 147, 150
お約束 11, 46, 57, 64, 70, 86, 102, 159, 210,
230
オリエンタリズム 244
オンラインゲーム 164, 166, 167
オンリーイベント 95, 126, 162

● か 行

解 釈 46, 75, 87, 88, 91, 109, 114, 127, 129,
130, 133, 134, 158-161, 167, 170, 176, 178-
180, 186, 215, 217, 247, 249
—共同体 87, 168
—のコード 115
海賊版 71, 94
ガイノクリティシズム 131
カタログ 114, 200, 202, 253
カップリング 11, 46, 101, 113, 114, 117, 118,
120, 165, 166, 194, 210, 244, 247, 249, 251,
253
カートゥーンワイ 95
家父長制 139, 140, 208, 252
カミングアウト 69, 153, 229
カルチュラル・スタディーズ 86-88, 156,
157
関係性 46, 59, 70, 72, 75, 79, 84, 85, 87, 91, 99,
104, 113, 115-117, 123, 127, 134, 142-145,
148, 165, 171, 174, 176, 177, 181, 183, 186,
187, 191, 225, 248, 251
—重視型 165
曖昧な— 75
男性間の— (人間関係) 106, 111, 159,

164
姦通罪 140, 149
擬人化 164, 238, 245, 250
吉祥寺企画 45
キャラクター 11, 42, 46, 52, 63, 67, 73, 111,
112-118, 120, 143-145, 147, 148, 166, 167,
186, 189, 192-194, 210, 242-244, 247, 248,
250
—重視型 165
—ボイス 190, 192
共同体 28, 87, 163, 164, 168, 156 →コミュ
ニティも参照
京都国際マンガミュージアム 35
クイア iii, 128
—・スタディーズ 129, 135, 145
—批評 123, 128-131, 133
—・ポリティクス 128
—・ムーブメント 128, 133
—・リーディング 123, 128-131, 133
グローバルゼーション 57, 61, 238, 245, 251
ゲイ i, 6, 25, 32, 44, 69, 82, 86, 94, 103,
104, 148, 152, 218, 221, 236, 241
—アート 152
—解放運動 227
—・カルチャー 227, 228
—コミック (ゲイマンガ) 152, 229, 232,
233
—雑誌 25, 32, 152, 221, 227-230, 232,
253
—差別 72, 125, 221, 224-227, 231, 232
—小説 26, 80, 84
—・ブーム 44, 225
ゲーム 94, 106, 119, 123, 132, 152, 157, 164-
168, 186-188, 238, 243, 250
研究倫理 201
原作 42, 46, 60, 71, 106, 107, 109-118, 123,
245, 247, 248
検索避け 181, 200, 218
現代短歌 126, 127
権力関係 64, 120, 138-140, 142, 149, 182
公式カップル 173, 177, 179
公私二元論 139
構造主義 106, 107, 119
公的領域 139
国民国家 239-241, 247
—とジェンダー 251, 252
国立国会図書館 196-200, 202, 203
個人的なことは政治的なこと 139

コミックマーケット 16, 27, 28, 41, 42, 54, 78,
110, 113, 114, 120, 199, 202, 211
コミティア 120
コミュニティ 91, 156, 157, 201, 247, 250
コモンズフィア 119
固有名 112, 114, 117, 120, 181

● さ 行

再解釈 126, 127, 130, 134
再生産 139, 140, 142, 149, 223, 224, 231, 240,
241
—労働 139
再占有・再盗用 128, 133
堺市立図書館 206
サークル 11, 41, 94, 108-110, 114, 162, 163,
203, 211, 253
サークルカット 114, 203
サークルペーパー 60
サッドエンド 191
参与観察調査 157
ジェンダー i, 33, 47, 50, 69, 82, 83, 85, 88,
129, 130, 140, 142, 149, 215, 239, 250
—アイデンティティ 69
—規範 iii, 87, 138, 140, 142, 146, 149,
182, 183, 208, 209, 211, 218
—研究 83, 84, 91
—秩序 78, 87
—のヒエラルキー 240, 253
—の非対称性 76, 217, 218
—批評 131
—不平等 138, 225, 234

自重 61, 138, 140, 218
質的調査 157
私的領域 139
社会運動 128, 135
趣味録 162, 163, 168
純潔主義 208
肖像権 158
少年愛 2-8, 14-16, 19-21, 23, 24, 32, 33, 41,
43, 47-55, 78, 79, 82-84, 86, 89, 90, 95, 118,
146, 184, 211, 228
女性化 240, 241, 244, 253
女性学 81, 83, 84, 91
女性嫌悪 (ミソジニー) 86, 88-90, 136, 182,
225, 227
女装 16, 67, 69
ショタ (ショタコン) 52, 53
人外 63, 64
シングルファーザー 67, 68, 148

身長 65, 144, 145
シンメ 173, 177, 184
数量分析 108
凶像 109, 112, 117
ステイグマ 73, 138, 150
ステレオタイプ 44, 48, 86, 223, 246, 248, 253
スラッシュ・フィクション 84, 94, 157
性差別 81, 139-141, 148, 209, 239
政治的プロパガンダ 242
青少年健全育成 (条例) 209, 213
性的合意 217
性的ファンタジー 50, 82, 191
成年コミック 143, 144, 149
成年向けマーク 199
性の二重基準 (セクシュアル・ダブル・スタン
ダード) 138, 140, 206, 208, 210, 212-214,
217, 218,
性 (的) 表現 42, 49, 55, 86, 95, 138, 141, 143,
145, 149, 150, 188, 206, 208, 211, 214, 215,
218, 238
性表現規制 87
性別二元制 140
性別役割分業 50, 139, 140, 208, 239
性暴力 146-148, 210, 213, 217
—反対運動 141
セクハラ 217
セックスシーン 42, 47, 49, 55, 66, 190-194,
210
相関図消費 87, 159, 164, 165-168
創作のコード 115
ソフトボルノ 228

● た 行

対抗的な読み 132
対象化 140, 142, 250
他者 48, 54, 62, 226, 232, 236, 237, 241, 242,
244, 250-252
—化 iii, 225
正しいセクシュアリティ 139, 140, 148
脱コード化 132
男女共同参画社会基本法 208
男性間の絆 132 →男同士の絆も参照
男性性 9, 79, 82, 240-242, 244, 248-251, 253
男性声優 16, 190, 192
男性同士の (強い) 絆 iii, 41, 129, 182 →
男同士の絆も参照
耽美 2, 8, 13, 15-17, 26, 27, 29, 31-33, 41,
47, 49, 51-54, 65, 99, 184
—小説 →JUNE 小説

耽美 (ダンメイ) 95
チーム男子 186, 187
著作権 (者) 107, 119, 120, 158
ちるちる 144, 150, 197, 198
データベース消費 166-168
当日版權 121
同人誌即売会 10, 11, 27, 42, 59, 109, 110, 120,
157, 158, 162, 163
同人マーク 119
同性愛嫌悪 (ホモフォビア) 86, 87, 104, 118,
129, 136, 182, 209, 223-226, 228, 229, 231,
234, 238, 241, 242, 251, 252
同性愛的な欲望 127, 129, 135
同性婚 232, 233, 242
図書館の自由に関する宣言 207
ドラマCD 16, 71, 94, 99

● な 行

ナショナリズム 238
ナマモノ 181
ニアBL 177, 178
二次創作 iii, 10, 11, 14-16, 28, 42, 45, 46, 50,
60, 75, 87, 94, 95, 98, 106-108, 111, 120, 134,
156-160, 166, 168, 169, 178, 181, 184, 218
—小説 120
—短歌 123, 132, 134
生の— 186
二者関係 62, 115-117, 142, 145
日常系 66, 76
日本出版取次協会 198
「日本すごい」ブーム 249
日本マンガ学会 73, 88, 120
納本制度 198, 202
ノベルゲーム 189, 190, 203

● は 行

バックラッシュ 208
バッドエンド 43, 55, 191
ハッピーエンド 13, 49, 55, 57, 62, 69, 73, 191,
224
パートナーシップ制度 232
花の24年組 →24年組
パラテキスト分析 109
パロディ化 241, 251, 252
美少女化 250
表現の自由 141
表象の横奪 224
表象の政治 136
ファン活動 107, 181, 183

ファン研究 88, 157, 183
ファン・コミュニティ 157, 158
ファンタジー 25, 63, 64, 70, 92, 104, 146, 211,
224, 225, 230, 234, 236, 237, 244, 245, 249,
251
—としての性暴力 147, 148
ファンダム i, 94, 95, 150, 157, 238, 252
ファン文化 108
腐営業 173
フェミニズム 80, 81, 106, 129, 135, 138, 148,
221, 222, 226, 227
— (文学) 批評 84, 131
第二波— 81, 139
不健全図書指定 206, 213, 214
不従順な創造力 133
腐女子 i, 5, 59-61, 72, 85, 87, 92, 134, 138,
155, 173, 218, 225, 230, 236, 237
—コミュニティ 60, 138, 140, 147, 218

舞台裏 176
腐男子 87, 229, 230
腐女 (フーニュー) 95
ブラウザゲーム 189, 193, 194
プロット 24, 118, 191
文学フリマ 126, 134
文学理論 106, 107, 119
文化庁メディア芸術データベース 196
「ヘタリア」論争 245
ヘテロセクシズム →異性愛中心主義
〔ヘテロ〕セクシズム 139
ヘテロセクシュアリティ 130, 240, 250
ヘテロ男性 222, 239, 240, 247
ヘテロノーマティヴィティ →異性愛規範
ペンカフエ 182
暴力 64, 65, 69, 72, 102, 138, 140-142, 145-
148, 234
ボーカロイド 119
ボコリ愛 67, 69
ポスト・コロニアル 244
ポピュラーカルチャー (研究) 88, 156
ホモソーシャリティ 129, 135
ホモソーシャル iii, 146, 182, 183, 251
ホモフォビア →同性愛嫌悪
ポルノ (ポルノグラフィ) i, 25, 26, 82, 84,
138, 203, 208, 212, 216, 226, 228

● ま 行

マルチナリオ・マルチエンディング 190,
191
マンガ同人誌 28, 31, 32, 87, 106, 109, 110,

112, 120
ミソジニー →女性嫌悪
見本誌 110, 120, 199
迷宮 28, 78
メディア・オーディエンス研究 157
メディア研究 77, 156, 157
メディア戦略 170, 174, 175, 179, 181
メリバ (メリーバッドエンド) 73, 69
妄想 81, 159-161, 167, 178, 183, 186, 187,
229, 236
萌え 55, 91, 123, 124, 126, 173, 181, 241,
242, 248
—語り 58, 59, 79, 161
モノ化 138, 140, 142, 145
物語世界 63, 90, 111, 116, 117, 149, 190
物語分析 110, 111, 118
物語論 (ナラトロジー) 107, 120

●や行

やおい iii, 2, 9, 10, 14, 15, 42, 87, 106, 132,
156, 181, 242

—コミュニティ 157
—族 228
—論争 82, 124, 221
有害図書指定 198, 206, 211, 213-215
百合 75, 76
—読み 130
米沢嘉博記念図書館 110, 199

●ら行

立命館大学ゲーム研究センター 196
レイシズム 244, 245, 252
レイブ神話 141
歴史の萌え化 250
歴史もの 65, 250
レズビアン 76, 101, 226, 228, 236, 241
—小説 26
レーティング 120, 191, 201

●わ行

わいせつ 213
わちゃわちゃ 176-178

作品・雑誌など

※BL(関連)作品は「引用・参考作品リスト」を参照

●アルファベット

AERA 59
ASUKA 40
Axis Power ヘタリア 238, 245
Badi 153, 227, 229, 232
b-BOY 45
Bloody Chain 194
BOY×BOY——私立光学院誠心寮 202
BOY'S & BOY'S 45
CHOISIR 82, 221, 222
CIEL 16
COM 25, 37
COMIC BOX 45
Comic Jun 7, 24, 41, 79 →JUNE も参照
Cool-B 197
CREA 44
FINAL FANTASY 164
G-men 155
HAPPY TOY 53
JUNE (雑誌) 2, 4, 7, 8, 13, 16, 17, 24-29, 31,
35, 41, 43, 47, 48, 50, 53, 55, 79, 80, 87, 97-
100, 135, 146, 184, 228, 229
KID'S 45
LaLa 4-6, 40, 43
MAGAZINE BE×BOY 50, 52
mimi エクセレント 16
MORE 44
Myojo 174, 178
NIGHTY Judy 64
ONE PIECE 110, 112, 116, 120
PINK GOLD 199
Racish 45
rockin'on 27
TIP TAP 53
WINGS 6, 40
WiNK UP 178

●あ行

アイドルリッシュセブン 166, 168
アイドルマスター 166
悪魔のようなあいつ 7, 26, 31, 98
アドン 154
アニメージュ 27

アポロの歌 211
あるまいとせんめんき 212
あんさんぶスターズ! 166, 168, 194
イマージュ 12, 13, 16
宇宙戦艦ヤマト 27
エロとろ R18 199
おっさんずラブ 72
弟の夫 152
俺! プロジェクト 193

●か行

風と木の逆襲 28
角川ルビー文庫 8, 13, 97, 100
艦隊これくしょん—艦これ— 166, 250
ガンダム 16, 42
君よ知るや南の獄 152
キャプテン翼 10, 11, 15, 16, 42, 45, 78, 82,
113, 212
共有結晶 123, 124
——別冊萬解 130
筋肉男 152, 155
銀の華 152
くされ女子! in Deep 236
グレープフルーツ 40
ゲイのおもちゃ箱 227
ゲイの学園天国 227
激男 155
ケーコタンのお絵描き教室 30, 35
月刊 OUT 27, 31, 41
月刊セブンティーン 4, 5, 212
豪ちゃんハレンチ評判記 215
このBLがやばい! 63, 73, 144
コバルト文庫 75
コミケ作家ガイド 73
コミック百合姫 76

●さ行

サウス 6
さぶ 25, 153
詩と思想 134
シャア出世物語 16
週刊少女コミック (少女コミック) 19-21,
24, 36, 43, 210
週刊少年サンデー 20

週刊少年ジャンプ 42, 186, 211, 215, 217
週刊セブンティーン 16
週刊明星 44
少女フレンド 20
小説 JUNE 8, 17, 30, 41, 97, 99, 100, 135
女性学年報 81
新米姉妹のふたりごはん 75
厨子王 53
スター・トレック 84
スーパーナチュラル 150
聖バレンタイン学園 202
聖闘士星矢 42, 94, 212
世界日報 208, 219

● た 行

タイバニ (タイガー&パニー) 134
タケル 53
黄昏詞華館 135
だっくす 92
つばさ百貨店 45
デジール 40, 43
ティディボーイ 53
刀剣乱舞 120, 164, 187, 194, 250
東方 Project 119
ドラえもん 120

● な 行

中島梓の小説道場 7, 17, 30, 33, 37, 99, 100,
102, 146
なかよし 20
颯り者 154
肉体派 152
虹色サンライズ 153
二次創作短歌非公式ガイドブック 132

● は 行

ばあじん♪おんど 212
ハイキュー!! 187
ハイティーン・ブギ 212
爆 男 155
パッツィ 45
花とゆめ 5, 6, 40, 43, 234
ば ぶ 12, 16, 27, 43, 44, 51, 53, 92
薔薇族 32, 154, 203, 228

ハレンチ学園 211, 215
ヒプノシスマイク 120
プチセブン 212
プチフラワー 6, 37, 40, 41
プリンセス 5, 6
別冊少女コミック 3, 5, 6, 18-21, 24, 229
ぼくの・稲荷山戦記 33
ポケットモンスター 120
ポニータ 6, 41, 43
ポル的一族 16, 28, 211

● ま 行

マーガレット (週刊マーガレット) 11, 20,
212, 229
マリア様がみてる 75
漫画新批評大系 28, 78, 211
まんがタイムきらら 76
ミュージカルテニスの王子様 186
ミルク 154, 155
モーリス 44

● や 行

夜追い 9
やけっぱちのマリア 211
やっぱりボーイズラブが好き 61, 63, 73
野郎ぜ!! 155
勇者ライディーン 16
ゆらぎ荘の幽奈さん 217
ユーリ!!! on ICE 72
ユリイカ 60, 73, 85, 86
百合姉妹 76
ゆるゆり 76
鎧伝サムライトルーパー 42, 46, 115
弱虫ペダル 187

● ら 行

ライブスペクタクル NARUTO 187
ラヴリ 9
ラッキードッグ1 190, 191, 193
らっぽり 9, 10
リアル BL の世界へようこそ 236
りほん 20
麗 人 153
ロマン JUNE 153

人名

● アルファベット

ARUKU 70
 ASTRO 175
 basso (オノ・ナツメ) 62, 70
 BIG BANG 172
 BTS (防弾少年団) 172, 173
 CLAMP 42, 119, 212
 EXO 184
 QUEEN 184
 SEVENTEEN 172
 Sexy Zone 173, 174
 SHOOVA 63, 231
 SixTONES 171
 Snow Man 171
 sono, N 68
 Travis Japan 178
 V6 171
 Wanna One 173, 179

● あ行

英田サキ 102
 青池保子 5, 6, 9, 31, 94
 赤枝香奈子 76
 赤松健 119
 秋里和国 6, 16, 41, 43, 228
 秋月こお (たつみや章) 7, 8, 31, 33
 阿久悠 32
 あさぎり夕 101
 浅野智彦 162
 東園子 58, 133
 東浩紀 165, 243
 吾妻香夜 144
 阿仁谷ユイジ 65, 70
 阿部進 215
 天城小百合 6
 新井煮干し子 66
 嵐 171, 173
 有満麻美子 82
 アンダーソン, ベネディクト 239
 飯田有子 134
 池玲文 65
 石川啄木 127
 石川優 86

石田仁 224, 232
 石原都子 31
 石原理 50
 市ヶ谷芽 67
 いちかわ壱 68
 市川けい 63
 一穂ミチ 103
 樹なつみ 6, 43
 伊藤文学 32
 伊藤泰信 157
 稲垣足穂 19
 井上佐藤 71
 今市子 67
 岩本朗子 17
 岩本薫 103
 上田理生 227
 上野千鶴子 83, 89, 227, 239
 内田カヲル 67
 梅松町江 67
 宇利綾香 144
 えすとえむ 64, 70
 榎田尤利 7
 エーデルマン, リー 136
 えみくり 47
 江森備 7, 31, 99
 エンゾウ 144
 扇ゆずは 66
 大澤真幸 239
 大島弓子 5, 228
 大滝和子 126
 大塚英志 78, 90
 大塚隆史 227
 大戸朋子 157
 岡田斗司夫 243
 岡田屋鉄蔵 (岡田屋愉一) 65, 70
 緒川千世 64, 194
 小倉東 227, 234
 おげれつたなか 64, 69
 尾崎南 11, 42, 62, 94, 212, 227
 尾鯨あさみ 7, 8
 尾田栄一郎 110
 小野塚カホリ 50

● か 行

花郁悠紀子 3, 9
柿沼瑛子 80
カサイウカ 67
笠間千波 87
梶本レイカ 65, 69, 147
かずあき 236
春日井健 126
語シスコ 50
かつらぎ 67
桂小町 64
金田淳子 62, 87, 88, 132, 157
鹿乃しうこ 65
雁須磨子 50, 62, 70
河合隼雄 19
川口晴美 134
河惣益巳 41, 43
神崎春子 (峯岸郁夫) 153
菅野彰 101
菅辺吾郎 68
紀伊カンナ 66
岸裕子 5, 43
北村夏美 61
木原敏江 4, 28, 43, 79, 227
金孝真 61
木村べん 25
九州男児 64
久掛彦見 31
琥狗ハヤテ 70
草間さかえ 62, 65, 70, 102, 103
久世光彦 32
雲田はるこ 12, 66, 68-70
栗原知代 80, 223
栗本薫 7, 8, 26, 33, 79, 98, 227 →中島梓も
参照
クリンプ, ダグラス 135
呉智英 107
紅蓮ナオミ 63
黒瀬珂瀾 126
黒娜さかき 70
高河ゆん 6, 42, 62, 212
こうじま奈月 54
古宇田エン 69
腰乃 66
小島アジコ 59, 218
こだか和麻 45
小谷真理 84
ごとうしのぶ 8, 100

寿たらこ 62, 64
木原音瀬 102
米谷郁子 133
今野緒雪 75
紺野キタ 71
紺野けい子 66

● さ 行

彩景でりこ 65
柴門ふみ (ケン吉) 28
榊原姿保美 30, 81, 99
坂田靖子 9
佐川俊彦 25-28, 30, 37, 39, 55
櫻井しゆしゆしゆ 62, 70
櫻木徹郎 25
紗久楽さわ 65, 72
ささやななえ 3, 20
さちも 66
佐藤史生 3, 20
佐藤雅樹 82, 118, 221
座裏屋蘭丸 65, 144
サルガニック, マシュー・J. 201
沢田研二 7, 26, 32, 98, 184
ジェンキンス, ヘンリー 157
紫能了 66
渋谷陽一 27
志水ゆき 62, 64
清水玲子 6, 16
霜月たかなか 28
ジャーニー喜多川 171, 173
ジャーニーズ 78, 170, 171
ジャーニーズ Jr. 171, 173, 174
蛇龍どくろ 65
しらいしあい 212
新ヶ江章友 135
新條まゆ 71
神薬理世 64
スカーレット・ベリ子 64
すがわらゆうすけ 153
須久ねるこ 71
鈴木ツタ 64
硯 遼 65
スタイネム, グロリア 141
須和雪里 100
セジウィック, イブ・コゾフスキー 129
セルトー, ミシェル・ド 132

● た 行

高口里純 16, 43, 114, 227

高永ひなこ 50
高野文子 28
高橋秀武 65, 71
高松久子 221
田亀源五郎 152, 253
宝井理人 70, 194
竹内哲夫 16
竹田やよい 28, 31
竹宮恵子 2-4, 7, 8, 15, 16, 18, 26, 28, 30, 33,
35, 41, 43, 71, 78, 79, 126, 146, 210, 212, 227
竹村和子 139
竹本小太郎 154
たなと 69
谷栖理衣 (佐木綺加) 124, 135
ためこう 69
丹下道 65
塚本邦雄 126
津田雅美 7
つづ井 59
常倉三矢 68
鶴谷香央理 59
手塚治虫 211
寺山修司 19
東宮千子 6, 43
トウテムボール 71
東方神起 172
トジツキハジメ 70

● な 行

直野憐羅 62, 67
永井豪 211
永井三郎 69
永久保陽子 60, 85, 144
中島梓 i, 7, 14, 17, 26, 28, 30, 37, 53, 79, 98,
125, 146 →栗本薫も参照
名香智子 5
中野冬美 (野村史子) 81, 83, 100, 146
中村明日美子 63, 69, 70
中村春菊 62, 65, 194, 219
凧良ゆう 104
那州雪絵 6, 43
夏水りつ 64
夏目イサク 64
ナツメカズキ 144
名藤多香子 157
橋崎ねねこ 66
成瀬一草 69
南原兼 101
西畑子 7, 30, 35, 228

西原麻里 86, 197
西村マリ 86, 115
ニッセンバウム, ヘレン 201
新田祐克 65, 68
のばらあいこ 65
野原くろ 154
野火ノビタ 10, 16, 45, 62, 92
野村史子 (中野冬美) 31, 100

● は 行

パウマン, ジークムント 163, 164
萩尾望都 2-4, 9, 15, 16, 19, 28, 41, 78, 211
羽純ハナ 67
波津彬子 9, 16, 39
鳩山郁子 39
羽生山へび子 66
波真田かもめ 66
濱松哲郎 131
はらだ 70
ばんこ。 64
樋口美沙緒 104
日高ショーコ 65, 70
びっけ 70
秀良子 69
日丸屋秀和 238, 245
日向良和 197
平田有 126
ヒルズ, マット 120
フィッシュ, スタンリー 87, 168
フーコー, ミシェル 88
伏見憲明 227, 228
藤本由香里 33, 72, 82, 89, 90
富士山ひょうた 64
藤原龍一郎 135
ブルボンヌ 234
文善やよひ 65
文乃ゆき 69
ヘッセ, ヘルマン 19
ベルサーニ, レオ 135
穂崎円 132
星野リリイ 62, 70
ボーディネット, トーマス 232
穂村弘 126
堀あきこ 86, 87, 222, 225, 226
ホール, スチュアート 132
ポーンマン, ジョン 240

● ま 行

前田ポケット 153

横えびし 69, 70
牧(太田)歳子 17
牧野和子 212
増山法恵 3, 19, 28
まつぎあけみ 41, 50
松下容子 6
松野志保 126
麻々原絵里依 42, 100
魔夜峰央 5
三浦しをん 61
ミウラタダヒロ 217
三浦宏規 187
三浦義隆 217
水城せとな 64
水野英子 16, 28
水原とほる 102
水間碧(谷川たまゑ) 81, 118
溝口彰子 72, 86, 87, 136, 147, 218, 224-227,
234
未散ソノオ 67
南月ゆう 68
ミヤケ, トシオ 247
ミレット, ケイト 139
村上隆 243
村上真紀 50
村野犬彦 153
村山敏勝 129
明治カナ子 64
本仁辰 64
本橋馨子 71
元ハルヒラ 65
桃井アロム 230
守如子 86, 147
森茉莉 8, 98, 227
森世 69
門地かおり 63

モンデンアキコ(もんでんあきこ) 71

●や行

矢萩貴子 41
山岸涼子 3, 4, 15, 20, 28, 223
八巻貴紀 187
ヤマシタトモコ 12, 67, 69, 70
山田ユギ 64
大和名瀬 63
山中ヒコ 65, 70
やまねあやの 62, 65
(有)すたんだっぶ 16
ゆき林檎 65
由良環 153
吉田秋生 6, 16, 227
よしながふみ 12, 50, 62, 68, 70, 91, 231, 251
吉原理恵子 30, 99
吉本たいまつ 232
淀川ゆお 200
米沢嘉博 28, 54
ヨネダコウ 64, 65, 147, 231

●ら行

ラウレティス, テレサ・デ 129
羅川真里茂 6, 7, 16, 39, 231, 234
ラドウェイ, ジヤニス 133
ラニヨン, ジョシュ 103
りーるー 68
ルネッサンス吉田 70
ルーマン, ニクラス 159, 160

●わ行

渡瀬悠宇 71
わたなべあじあ 65
ワトニー, サイモン 136

● 編者紹介

堀 あきこ (ほり あきこ)

関西大学他非常勤講師

守 如子 (もり なおこ)

関西大学社会学部教授

BLの教科書

BL Studies: An Introduction

2020年7月20日 初版第1刷発行

編者 堀 あきこ
守 如子
発行者 江 草 貞 治
発行者 株式会社 有 斐 閣



郵便番号 101-0051
東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 (03)3264-1315 [編集]
(03)3265-6811 [営業]
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・大日本法令印刷株式会社／製本・大口製本印刷株式会社

© 2020, HORI Akiko, MORI Naoko. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-17454-2

JCOPY 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。